

令和3年中の安管選任事業所従業員による交通事故発生状況

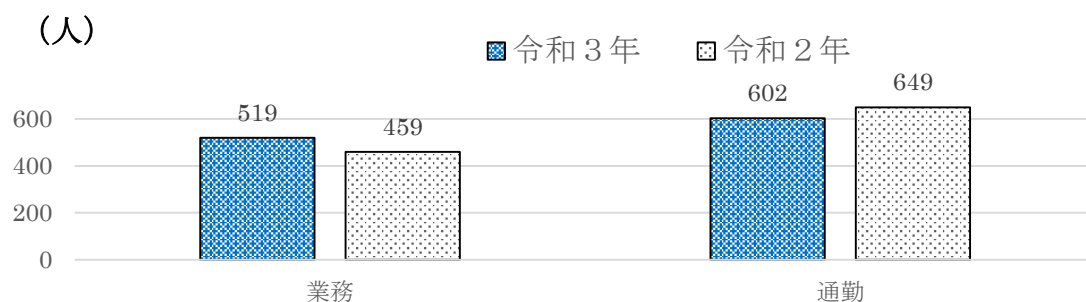
- 1 本資料は、安全運転管理者選任事業所、又は運転代行業（以下「安管事業所」といいます。）の従業員が千葉県内において業務中又は通勤中に起こした人身事故を分析したものです。物件事故（人の死傷を伴わない事故）の数値は含まれていません。
- 2 本資料には、他県の安管事業所の従業員が千葉県内で起こした事故の数値が含まれていますが、本県の安管事業所の従業員が他県で起こした事故の数値は含まれていません。

1 千葉県内の事故発生状況

		累 計			
		令和3年	令和2年	増減数	増減率
発生件数		1,121	1,108	13	1.2
昼	日の出1時間後	54	70	-16	-22.9
	その他昼	695	684	11	1.6
	日の入1時間前	74	61	13	21.3
	昼計	823	815	8	1.0
夜	日の入1時間後	104	99	5	5.1
	その他夜	167	168	-1	-0.6
	日の出1時間前	27	26	1	3.8
	夜計	298	293	5	1.7
死者数		11	10	1	10.0
負傷者数		1,336	1,278	58	4.5
重傷者数		124	116	8	6.9
軽傷者数		1,212	1,162	50	4.3

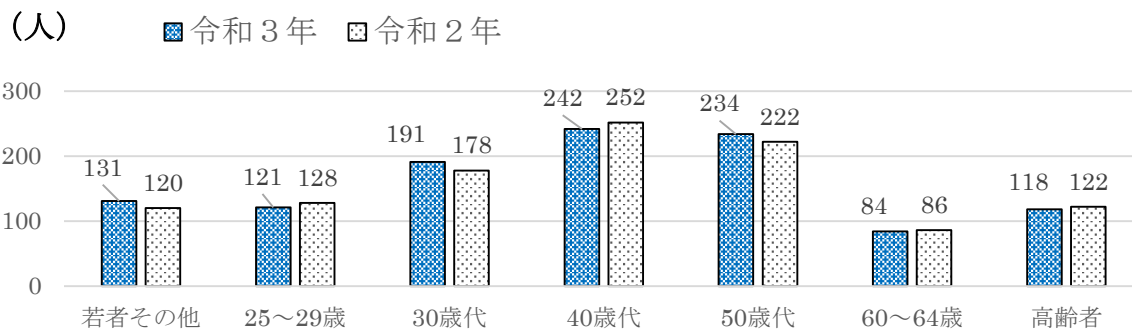
令和3年中における安管選任事業所従業員に係る交通事故は、令和2年に比べ発生件数、死傷者数ともに増加しました。時間帯別では日の入り1時間前から日の入りまでの薄暮時が21.3パーセント増加しているのが目立ちます。また、重傷者数も6.9パーセント増加しており、厳しい状況が続いています。

2 第1当事者の運行目的別発生状況



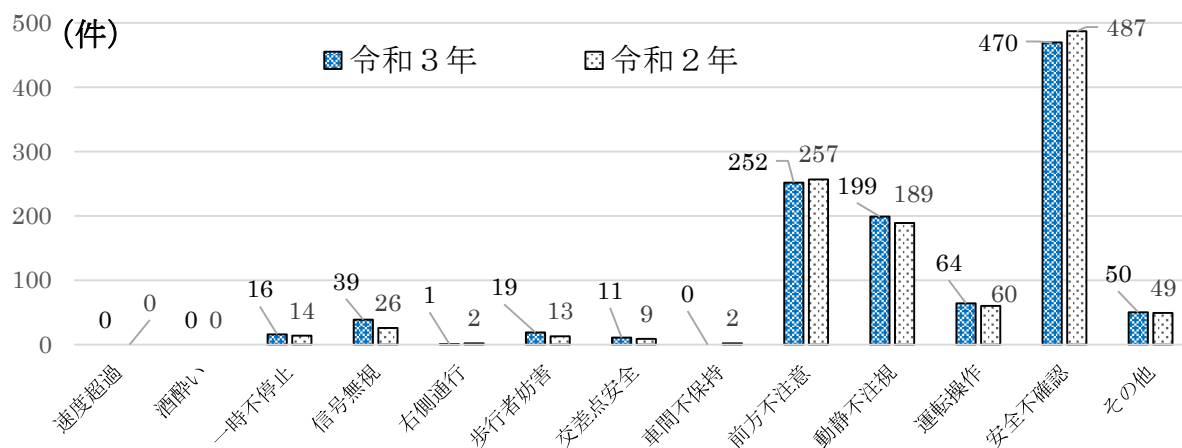
業務中の事故が519人（46.3%、前年比+60人）と増加したのに対し、通勤途中は602人（53.7%、同-47人）、と減少しています。業務に出発する際に具体的な安全指導をするなど、業務中の事故防止対策を推進してください。

3 第1当事者の年齢層別発生状況



第1当事者は40歳代の242人(21.6%)と50歳代234人(20.9%)の比率が高くなっています。高齢者(65歳以上)は118人(10.5%)ですが、高齢者を雇用しているのは全事業所の20パーセント程度であることを考えると、高齢者が第1当事者になる比率は高いと言えます。

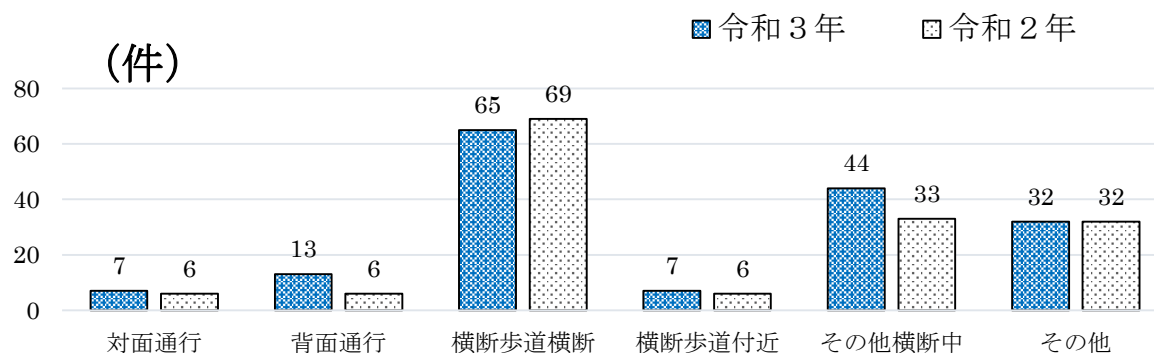
4 第1当事者の違反・原因別発生状況



事故原因は、前方不注意、動静不注意、運転操作不適、安全不確認などの安全運転義務違反が計985件で事故原因の87.9%を占めています。①交差点や横断歩道付近では確実に前方左右の安全確認を行う。②運転中は運転に集中して考え事や脇見をしない。という安全運転の基本を徹底してください。また、速度超過を直接の原因とする事故は発生していませんが、衝突時の速度が高ければ当然、重大事故につながりやすくなりますので、速度の管理にも取り組んでください。

5 事故類型別発生状況

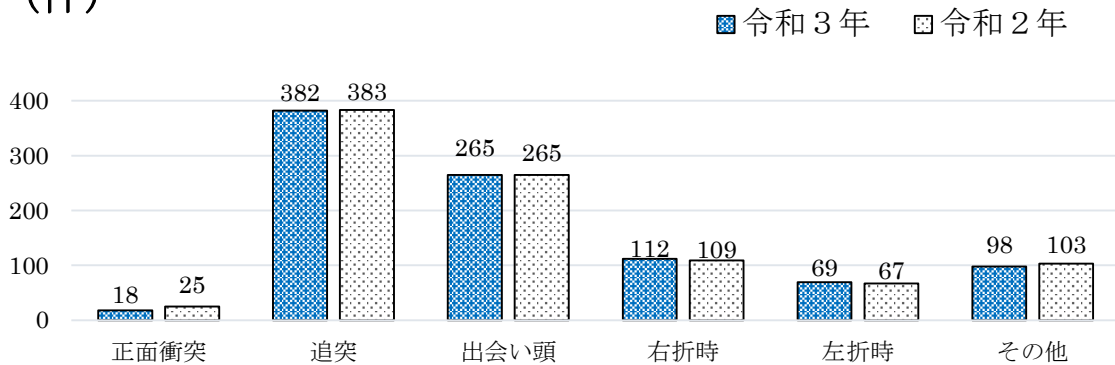
(1) 人対車両(計168件)



横断歩道横断中の歩行者は最も保護されるべき交通パートナーですが、人対車両事故では横断歩道横断中の事故が65件(前年比-4件)と最も多くなっています。右折または左折して横断歩道を通過する際には歩行者を見落としやすいので注意してください。

(2) 車両相互 (計 944 件)

(件)

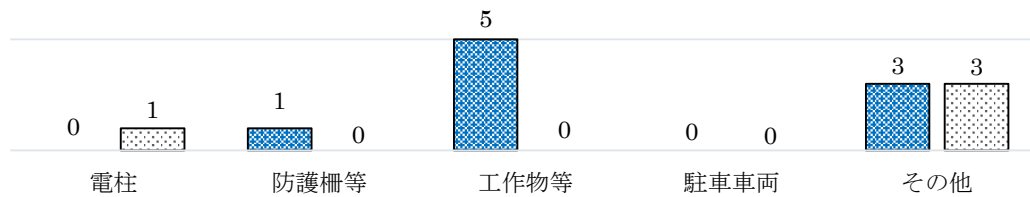


最も多い事故形態は追突（382件、全事故の34.1%、前年比-1件）でした。次に多いのが出会い頭（265件、23.6%、前年比±0件）でした。出会い頭事故は重傷事故に発展しやすいので、交差点通過時は状況に応じて徐行・停止すると共に、確実な安全確認をお願いします。

(3) 車両単独 (9件)

(件)

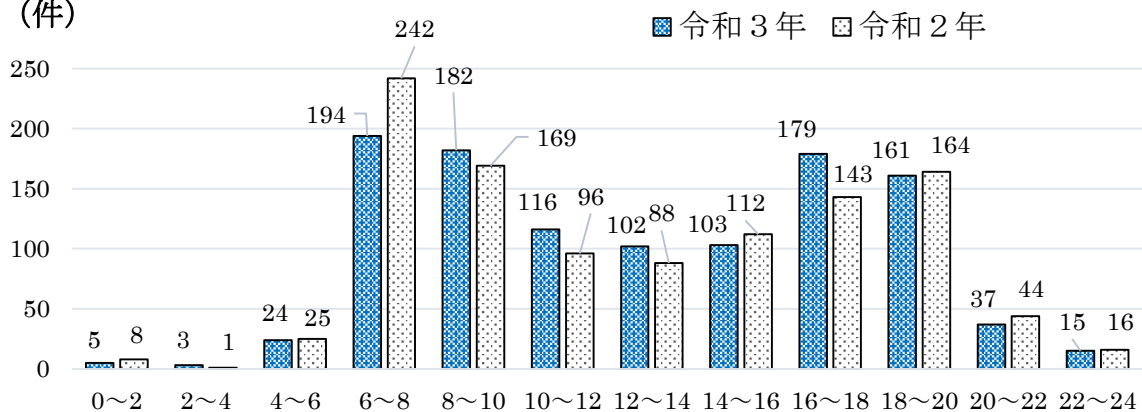
■ 令和3年 □ 令和2年



令和3年中の車両単独事故は9件で、工作物等への衝突が増加しています。

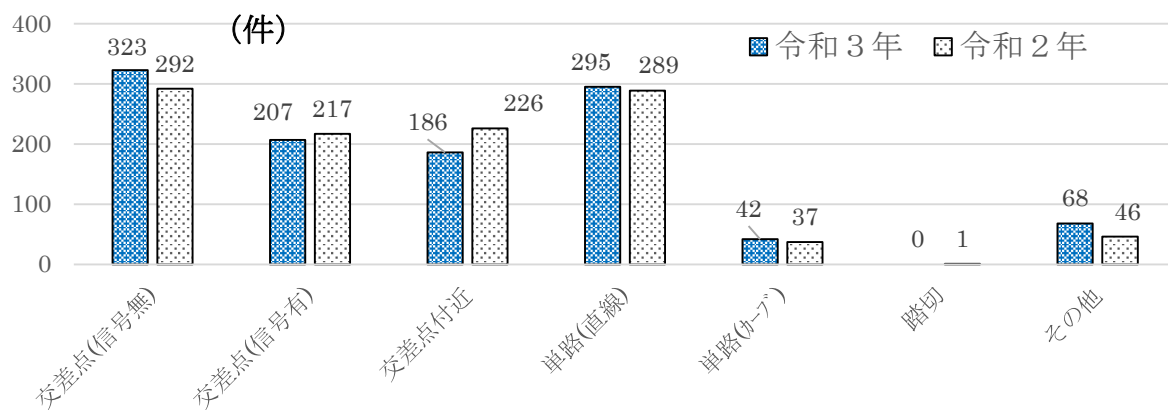
6 時間帯別発生状況

(件)



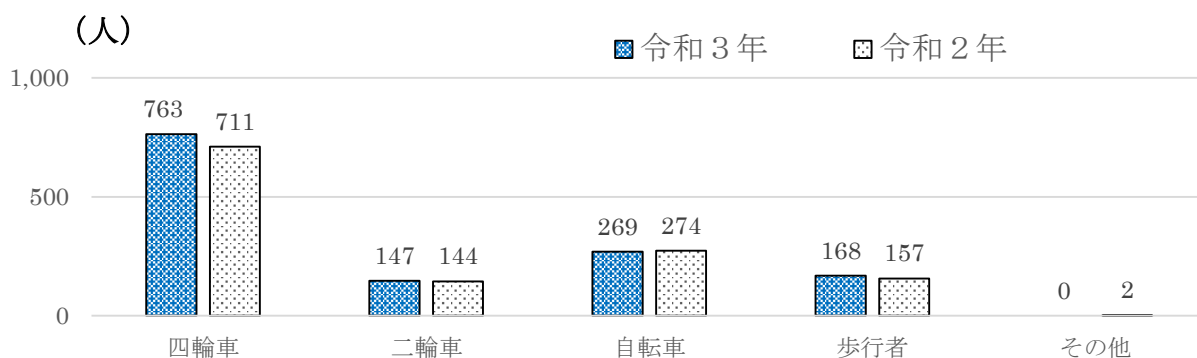
時間帯別で最も多かったのは、6時から8時までの194件（17.3%、前年比-48件）でした。また、6時から10時までの時間帯に376件33.5%、16時から20時までの時間帯に340件、30.3%の事故が発生しています。安管事業所における事故の53.7%が通勤中に発生していることが、朝夕の通勤時間帯における事故多発の一つの要因になっていると考えられます。従業員の通勤中における事故防止対策も安全運転管理者の重要な業務ですので、積極的な取り組みをお願いします。

7 道路形状別発生状況



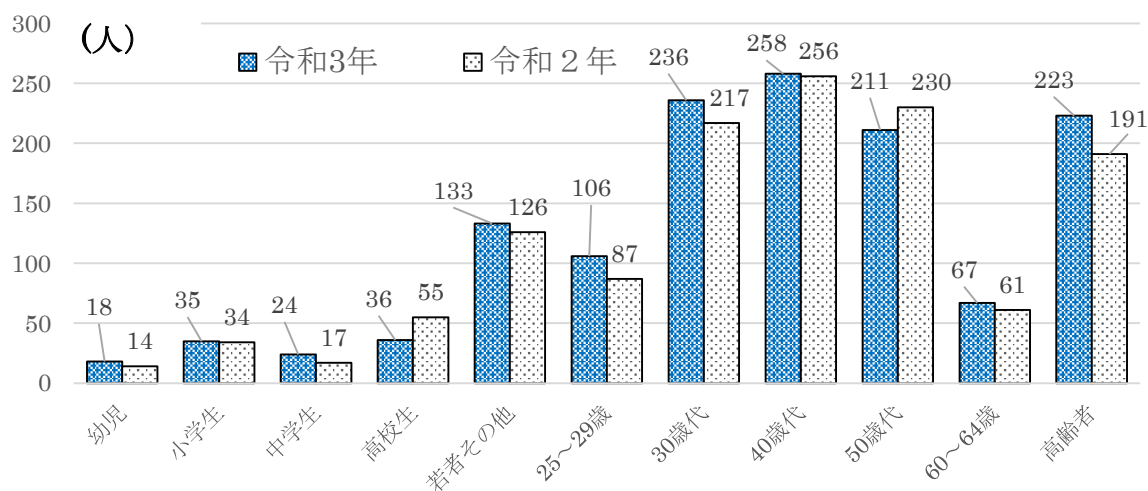
道路形状別では、交差点及び交差点付近の事故が合わせて 716 件（63.9%、前年比-19 件）で、事故の 6 割以上が交差点及び交差点付近で発生しています。単路（直線）の事故が 295 件（26.3%、同+6 件）と高い比率を占めているのは、事故類型で最も多い追突事故（34.1%）の多くが単路（直線）で発生しているためと考えられます。

8 死傷者の状態別発生状況



死傷者の状態別では、四輪車乗車中が最も多く 763 人（56.6%、前年比+52 人）、次いで自転車の 269 人（20.0%、同-5 人）でした。歩行者は 168 人（12.5%、前年比+11 人）でした。対自転車と対歩行者の事故は重大事故につながりやすいので、横断歩道や交差点等を通る際は安全確認を確実に行ってください。

9 死傷者の年齢層別発生状況



死傷者は、30 歳代の 236 人（17.5%、前年比+19 人）、40 歳代の 258 人（19.2%、同+2 人）、50 歳代の 211 人（15.7%、同-19 人）、高齢者の 223 人（16.6%、前年比+32 人）がほぼ横並びの状態でした。死亡事故は高齢の被害者が多いことが大きな特徴となっておりますが、高齢者の負傷者数も増加しています。